

# 2022年度(令和4年度)学校評価自己評価表

東朋中学校区	校番 26	福山市立東朋中学校
最終更新日		2023年(令和5年)2月9日

## I 福山市

**ミッション** 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。  
**ビジョン** 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

## II 中学校区

<p><b>前年度学校関係者評価の主な内容</b></p> <p>○コロナ禍により、一堂に会して協議を行うことはできなかったが、年間3回、各校の取組を紙面で報告した。</p> <p>○3回目の紙面協議会では、評価委員全員に今年度の各校の取組について評価をいただいた。</p> <p>○各校の取組を高く評価いただけたものが多かったが、「地域との連携、情報発信」については課題があるとのこと指摘をいただいた。</p>	<p><b>児童生徒の現状</b></p> <p>○「授業が面白い」「考えを表すことができている」等の主体的な学びに関する児童生徒の肯定的評価が8割以上であり、主体的に学ぶ意欲が高まっている。</p> <p>○昨年度も、新型コロナ感染拡大防止のため、児童生徒が対面して交流する機会をもつことができなかった。</p> <p>○委員会や学級等で、児童生徒が自ら健康づくりや体力づくりに楽しく取り組めるよう考え、計画・実践している。</p>	<p><b>育成する力</b> (21世紀型“スキル&amp;倫理観”)</p> <p>○課題発見・解決能力 ○コミュニケーション能力 ○チャレンジ精神(自己効力感) ○思いやりと感謝の心(地域貢献)</p>	<p><b>めざす子ども像</b> (義務教育修了時の姿)</p> <p>○よりよく課題を解決し、自分の生き方に生かす ○互いを認め、よりよい人間関係を形成する ○自分に必要な挑戦を選択してやってみる ○人や社会の役に立てたことへの喜びや達成感を感じる</p>	<p><b>中学校区として統一した取組等</b></p> <p>○子ども主体の学びづくり(授業、児童生徒会活動、ボランティア活動など) ○体力や健康についての自己課題の解決 ○SDGs「住み続けられるまちづくりを」につながる生活科・総合的な学習の時間等の充実</p>
--	---	--	--	---

## III 自校

<p><b>ミッション</b></p> <p>社会に貢献できる自立した生徒(=「自立貢献」の生徒)の育成</p>	<p><b>育成する力</b> (21世紀型“スキル&amp;倫理観”)</p> <p>課題発見・解決能力 コミュニケーション能力 チャレンジ精神(自己効力感) 思いやりと感謝の心(地域貢献)</p>	<p><b>めざす子ども像</b></p> <p>よりよく課題を解決し、自分の生き方に生かす。</p> <p>互いを認め、よりよい人間関係を形成する。</p> <p>自分に必要な挑戦を選択してやってみる。</p> <p>人や社会の役に立てたことへの喜びや達成感を感じる。</p>
<p><b>学校教育目標</b></p> <p>自立貢献の生徒の育成</p>		
<p><b>現状</b></p> <p>&lt;児童生徒&gt; ○「その日のうちに寝て、7時間以上の睡眠及び、朝食をとっている」の肯定的評価は73.3%であり、約30%の生徒は自分の生活を管理できていない。Chromebookの全生徒配布を考慮し、メディアと上手に付き合いながら自立した生活が送れるように促していく。 ○相手の気持ちを想像する力が不十分で相手との距離感が分からず、生徒間トラブルが起こることがある。 ○「学校や地域でボランティア活動の機会があれば参加したいと思う」の肯定的評価は83.7%であるが、実際のボランティア参加率は57.0%である。コロナ禍においても生徒が主体的に参加できるボランティア活動の工夫・実施に努めていく。</p> <p>&lt;授業&gt; ○「ICT端末を利用した活動が、学びに役立っていると思う」は97.4%。「授業で、グループ活動やペア学習などの対話的な学びを通して、わかることが増えたと思う」は95.3%と肯定的に捉え学習に取り組んでいる反面、昨年度の全国学力テストでは国語正答率63%(全国平均64.6%)、数学正答率53%(全国平均57.2%)と差が見られる。生徒の肯定的な捉えを学習意欲につなげるとともに、生徒の充実した学習のための授業づくりに努めていく。</p>	<p><b>研究</b></p> <p>テーマ 生徒一人ひとりの深い学びを実現するための主体的、対話的な教育活動の工夫</p> <p>内容等 ○SDGsの視点を盛り込んだカリキュラム・マップ、単元指導計画の研究 ○教育活動全般を通じて育成する力(21世紀型“スキル&amp;倫理観”)の向上</p>	<p><b>めざす授業の姿</b></p> <p>○どの生徒も主体的に課題を見出し、解決策を講じながら、より深く学びに浸ることのできる授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを整理し、論理的に表現できる場の設定。</li> <li>・他者の考えや意見に共感し、尊重できる集団づくり。</li> <li>・ICTの活用を通じた、生徒の課題解決や既習内容の補完への支援・伴走。</li> <li>・各教科・領域がSDGs(持続可能な開発目標)の視点で結ばれ、学びを通じて自分、地域・社会の現状や将来を考えられる場の設定。</li> </ul>

福山市立東朋中学校

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期 経営目標	重 点	分 類	短期 経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る 取組状況	○ <sup>70%</sup> 達成 評価評価	改善 方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	○ <sup>70%</sup> 達成 評価	総合 評価	改善 方策		
6	主体的に 学ぶ授業 づくりの 推進		継続	自ら課題を 発見し、仲間 と協力して 解決しようと する「学び に向かう力」 の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを活用し、生徒が主体的に情報を収集したり、共有したりする学習の構築</li> <li>仲間と協働しながら、自己の考えを深めることができる授業づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ICTを活用した授業で、自分の考えが深まっている」70%以上</li> <li>「授業で考えることが面白い」85%以上</li> <li>「授業が分かる」90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ICTを活用した授業で、自分の考えが深まっている」85.0%</li> <li>「授業で考えることが面白い」81.6%</li> <li>「授業が分かる」85.3%</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTの使用が目的でなく、考えを深めるためのツールとなる活動を増やす。</li> <li>生徒主体の活動を仕組み、考える機会を増やしていく。</li> <li>お互いの授業を見合う機会を設け、よい活動は学校全体の取組として実施できる土壌を構築していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ICTを活用した授業で、自分の考えが深まっている」85.1%</li> <li>目標値を上回ることができた</li> <li>「授業で考えることが面白い」81.8%</li> <li>目標値を上回ることができた</li> <li>「授業が分かる」86.2%</li> <li>目標値に届かなかった</li> </ul>	3	3	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICTを使用することで満足してしまい、考えを深めるためのツールとしての活用には届いていない状況がある。効果的なICTの活用について、教務を中心に学校全体で研究していくことで、よりよい授業づくりにもつなげていく。</li> <li>学校行事や生徒会活動などでは、生徒主体の取組がみられることが多かった。しかし、生徒主体といながらも教員がルールを敷いている場面が多く、特に授業において、本来の意味での「生徒主体」とはいきれない。今後、教員がファシリテーターとして、生徒の「したい」をより引き出していけるよう、教員間でも「主体性」を高め合っていく。</li> <li>引き続き、お互いの授業を見合い、生徒のようすを語り合う機会を設け、生徒の学力定着・向上のために必要な取組を「縦断的・横断的」に仕組んでいく。</li> </ul>
5	自己肯定 感・自己 有用感の 向上	★	継続	一人ひとりの 承認欲求が 満たされる 集団づくり の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な場面で話し合い活動の充実</li> <li>多様な社会状況に目を向け、LGBTQ等についての理解に向かう人権教育の充実</li> <li>学年会や推進委員会等をはじめとする縦断的・横断的連携の確立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「お互いの考えや意見が大切にされていると思う」85%以上</li> <li>「先生は、自分のことを見てくれている」80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「お互いの考えや意見が大切にされている」95.3%</li> <li>「先生は、自分のことを見てくれている」96.7%</li> </ul>	3	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、授業の中で個人の意見を尊重し、認め合える活動を仕組む。</li> <li>一人一人の生徒の様子をしっかり観察し、些細な変化を学年間・学校間で交流し、情報共有を迅速に行っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「お互いの考えや意見が大切にされていると思う」97.1%</li> <li>目標値を上回ることができた</li> <li>「先生は自分のことを見てくれている」96.2%</li> <li>目標値を上回ることができた</li> </ul>	3	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>分掌会や学年会を中心に、生徒一人一人の情報を教員間で交流し、個に応じた対応について、共通理解をもっと取り組むことができています。今後も家庭を含めた学校体制で、生徒一人一人と向き合っていく。</li> <li>生徒が自分自身の意見や経験を他の生徒の前で安心して発表できる環境を高めていくために、聞き方のスキル向上のための活動を仕組んでいく。</li> <li>校則の見直しを始めて、生徒会を中心によりよい学校生活について生徒自身が主体的に考えた結果、LGBTQの視点を取り入れて制服の規定を変えていくことができた。今後も生徒一人一人が学校生活を向上させていくために、生徒会を中心とした活発な意見交流を行っていく。</li> </ul>
8	安全で安心 できる 学校づくり の推進		継続	生徒・保護者 の学校満足 度の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの心に寄り添った生徒、保護者との相談体制や学級、学年の情報提供の充実</li> <li>生徒と向き合う時間を確保するための業務改善(分掌会の実施)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ICTを活用した情報発信の推進」</li> <li>「安心して通っている」生徒95%以上</li> <li>「安心して通っている」保護者95%以上</li> <li>勤務時間外在校時間が月4.5時間以内の職員85%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校は、学校の様子をいろいろな方法によって、保護者に伝えている。」92.3%</li> <li>「安心して通っている」生徒93.7%</li> <li>「安心して通っている」保護者94.5%</li> <li>「安心して通っている」保護者94.5%</li> <li>月4.5時間以内の職員79.8%</li> </ul>	3	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>HP、Classroomを軸に細かく情報を発信する。</li> <li>いじめ、ヤングケアラーアンケート・Q-Uを実施し全員面談を行い、生徒の悩みに寄り添う。</li> <li>保護者の悩みを聞く機会を設けケースに応じた指導を行う。</li> <li>業務の精選とカリキュラムの随時見直しを行い生徒と向き合う時間を生み出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校は、学校の様子をいろいろな方法によって、保護者に伝えている」93.2%</li> <li>目標値には届かなかった</li> <li>「安心して通っている」生徒95.6%</li> <li>「安心して通っている」保護者95.0%</li> <li>目標値を上回ることができた</li> <li>月4.5時間以内の職員85.5%</li> <li>目標値を上回ることができた</li> </ul>	4	4	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙媒体だけでなくHPやClassroomで情報を発信したが、受信側にまで届いていない状況があったので、Classroomをスマートフォンからでも開けるように周知する。また、福山市メールを活用し、より情報を発信していく。</li> <li>SCの活用をより効果的に行い、家庭での保護者の困り感や生徒の学校での悩みが相談できるようにしていく。</li> <li>5時間授業の日を増やすことで、教員にゆとりが生まれ、生徒と向き合う時間を確保することができた。次年度は、通念を通して5時間授業の日を増やせるように、カリキュラムマネジメントを行うとともに、行事・業務の精選を行っていく。</li> </ul>

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。